木田市長の

ど～んとコミュニケーション vol.84

2つのアルプスをのぞむ町　飯島町

11月6日、長野県飯島町（いいじままち）と災害時相互応援協定を結ぶことができました。この協定は、美濃市、大町市に続いて三つ目となり、今後の計画としては三田市と締結することになっております。南海トラフの巨大地震が心配される中、ほかの市町とお互いを助け合う為の協定を結ぶことは大切であると考えています。

美濃市、大町市の場合はどちらかといえば、こちらから協定締結をお願いしたような形でした。しかし、飯島町の場合は、8月に飯島町の町長と町議会議長が鳥羽にみえて、相手方より鳥羽市との交流や防災協定の締結を申し入れていただきました。

飯島町は人口約1万人、長野県でも南部に属し、鳥羽からも比較的近い位置にあります。中央アルプスと南アルプスの両方をのぞむことができ、天竜川が悠々と流れる自然豊かなところです。農業が盛んで、りんごや梨が多く栽培されています。また、栗を使った菓子がたくさん考案され、みやげ物として観光にも一役買っています。

長野県民なら誰でも知っているといわれる「信濃の国」という歌があります。その歌詞の中に「四つの平は肥沃の地、海こそなけれ・・・」という部分があります。長野県の人達は、自分達の住んでいるところが素晴らしいところであるという自信を持っていますが、ただ海がないのは残念であるという気持ちがあるようです。そのような思いの中で、海を「売り」にしている鳥羽市と交流をしていきたいと考えられ、今回の飯島町の提案につながったのではないでしょうか。

協定締結のために鳥羽市から12名が参加しましたが、飯島町のみなさんによる歓迎は大変厚く、なかなかわたしたちではこのような歓迎はできないなと感じたほどでした。これに先立つ11月3日には、飯島町のイベントに鳥羽市の海産物をたくさん持って参加しました。町の人達には大変興味を持っていただいて、完売に近いほど良く売れたそうです。今後、交流を続けていくうえで、幸先の良いスタートとなりました。

2つのアルプスの見える雄大な景色、果物がたわわに実る豊かな土地そして、そこに住む人達の素晴しい人柄。これから永くお付き合いができればと期待しています。飯島町のこどもたちが鳥羽の海へ、鳥羽のこどもたちが飯島の山々へ、それぞれ楽しみにして行き来する日が来てほしいものです。

コスモスと飯島町の山々

東京奮闘記！ vol.4

市では、今年度から離島振興や首都圏での観光、企業誘致のＰＲを行うため、東京へ駐在員を派遣しています。

企画財政課企画経営室　☎㉕１１０１

鳥羽への想い

朝夕冷え込む季節になってきました。東京の冬は鳥羽よりも寒く感じます。

職場のある永田町周辺には、国会議事堂、各政党の本部があります。11月16日に衆議院が解散し、今後の政局を占う衆議院議員選挙が控えており、いつもとは違う慌ただしさを感じます。また、霞ヶ関の各省庁では、平成25年度の予算要望の時期ということもあり、こちらも同様の慌ただしさを感じます。

こうした中央の流れを肌で感じることができるのも、東京に派遣されているからこその特権かもしれません。

さて、東京での仕事の中で、鳥羽市出身者とお会いする機会も増えてきました。今回はお二人のかたを紹介します。

石鏡町出身の里中克行さんは、都内で居酒屋を経営されています。お店に市の観光ポスターを貼らせていただき、市のＰＲに協力していただいています。お店では、ヒジキなど地元の食材も出されており、ちょくちょくお邪魔しています。

答志町出身で会社員の濱崎安隆さんは、同郷の先輩です。地域活性化についてお話を伺ったり、東京での活動のアドバイスをいただいたりしています。

お二人とも地元への想いが強く、関東在住者の目線で、地域活性化、観光ＰＲなどさまざまなアドバイスをいただいています。首都圏で活躍されているかたからのアドバイスは、励みにもなります。

濱崎安隆さん（左）　里中克行さん（右）